

松本マラソンの継続可否について

1 松本マラソンの検証

- (1) これまでの大会背景及び実績
- (2) コース設定における最大の課題
- (3) 参加者等へのアンケート結果

(1)－1 これまでの大会背景及び実績

開催年	大会背景	魅力向上の取組み
2017 2019	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソンブームの中、山田杯梓川ハーフマラソンの終了に伴う議会からの要望を受け、松本でのマラソン大会開催に取り組んだ。 ・健康寿命の延伸と生きがいづくりを推進し、松本ならではのスポーツ文化として定着させ、国内外のランナーが憧れる大会を目指した。 <p>2018大会は台風の影響で中止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルグッズの制作 ・そばの振る舞い
	<p>●開催の目的</p> <p>「マラソンを通じた健康づくり」「世代を超えた地域コミュニティの「きずな」の強化」「交流人口の拡大と地域経済の活性化」</p>	
2020 2021	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大によるランナー人口の減少 ・豪雨災害によりコースが使用不能になり中止 <p>2020大会は新型コロナウイルスの影響で中止、2021大会は災害の影響で中止</p>	
2022 2023	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソンブームが下火になり、全国の大会でエントリー数の確保が困難となっている中、コロナ禍による大会中止でビギナー層が離れ、ランナーの裾野が縮小した。 ・幅広い世代が参加したいと思える大会への進化を目指し、新たな魅力向上等に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新コースでの開催 ・ファンランの部新設 ・山の神賞、峠の茶屋、おもてなし茶屋の実施
2024	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソンの開催を目的から問い直すことで、松本の魅力発信を重視したシティプロモーションの一大施策として大会を再定義。エントリー数の確保と財政面での課題解決を図りながら、観光振興と地域経済活性化を主軸とした新たな大会運営方針への転換を目指した。 <p>●開催の目的</p> <p>「ランニングによる生涯スポーツの推進」「三ガク都 松本の価値・魅力の発信」「交流人口の拡大と地域経済活性化」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新コースでの開催 ・エイドの強化 ・女性用トイレ増設 ・パウダーコーナー設置

(1)-2 これまでの大会背景及び実績

開催年			2017大会	2019大会	2022大会	2023大会	2024大会	2025清算
エントリー数 ※1	マラソンの部	参加料	10,800円	10,800円	12,000円	12,000円	12,000円	2023大会 15,950,000円
		定員	10,000人	10,000人	10,000人	9,000人	6,000人	2024大会 27,857,383円
		エントリー数	10,058人	8,311人	5,572人	4,918人	5,171人	
	ファンランの部		－	－	－	1,008人	1,460人	
	ファミリーランの部		257組(555人)	315組(670人)	269組(588人)	318組(687人)	335組(722人)	
総収入(A)			260,040,721	246,494,730	265,523,745	237,622,218	219,411,848	43,807,383
参加料	マラソンの部		108,399,600	89,564,400	66,612,000	58,872,000	61,756,000	
	ファンランの部		－	－	－	3,983,000	5,778,000	
	ファミリーランの部		874,800	1,054,080	927,300	1,101,100	1,152,800	
協賛金			44,793,000	46,959,000	40,577,000	40,544,000	40,852,000	43,807,383
松本市負担金			93,080,000	91,280,000	120,510,000	117,510,000	94,000,000	
その他収入(負担金、雑入、繰越金)			12,893,321	17,637,250	36,897,445	15,612,118	15,873,048	
総支出(B)			244,702,900	245,870,736	264,780,981	252,825,452	247,269,231	0
収支(A－B)			15,337,821	623,994	742,764	△ 15,203,234	△ 27,857,383	0
単年度収支(繰越金除く)			14,075,843	△ 6,656,816	△ 20,891,345	△ 15,945,998	△ 28,604,149	(単位：円)
経済波及効果※2			7億1,367万円	6億0,575万円	4億1,821万円	4億6,257万円	5億2,947万円	

2018大会(台風中止)、2020大会(コロナ中止)、2021大会(豪雨中止)

※1 ゲスト、ペースランナー含む。

※2 2017年松本マラソン終了後、民間調査会社が行ったアンケートを基に、ランナーと同伴者の長野県内での消費額及び実行委員会の支出した経費を合わせ経済波及効果を算出した。2019年以降については2017年の算出根拠から推計し、物価上昇率をかけたもの

【ポイント】

天候や新型コロナウイルスの影響で全8回のうち、3回が中止となった。コロナ禍を契機に全国のマラソンブームが下火になる中、コースの改善やおもてなしの強化、新たな種目の追加等に取り組んできたが、定員に満たない状況が続いている。

当初は定員1万人、参加料収入1億円、市負担金1億円で設計され、経済波及効果は7億円に達したが、大会を重ねるごとにエントリーは減少し、参加料収入も減収となったことから、当初の収支計画どおりとならず、近年、赤字が続いている。

フルマラソンを継続するには、参加料収入、協賛金及び市負担金の増額が必要だが、ランナーが求めるコース設定(記録が出やすい・眺望が良い)が容易ではないこと及び近県の人気大会(金沢・富山)と開催時期が重なっていることから、目標定員を増やして開催することは難しく、市負担金に頼らざるを得ない状況となっている。

(3) 参加者等へのアンケート結果

【回答期間】 令和7年7月4日(金)～7月22日(火) 【回答方法】 インターネットによる回答
【対 象】 2022～2024大会に参加したランナー及びボランティア、松本ホテル旅館協同組合、松本食堂事業協同組合並びに松本飲食店組合に加盟している事業者

1 ランナー向けアンケート	2 ボランティア向けアンケート	3 宿泊・飲食店向けアンケート
対 象：12,714件 松本市在住：593件（30.2%） 回答数：3,580件（28.2%）	対 象：1,018件 回答数：154件（15.1%）	対 象：約300件 回答数：15件（5.0%）
【大会の再開希望】 再開を希望する ：80.7% 再開を希望しない：4.4% 希望しない理由 ・コースに魅力がない 43.3% ・不正会計 21.0%	【2025大会の参加予定】 参加予定だった：64.3% 検討中だった ：23.4%	【大会の再開希望】 再開希望 ：46.7% 希望しない：26.7% 分からない：26.7%
【希望する開催形式】 フルマラソン ：73.9% ハーフマラソン：15.8%	【大会の再開希望】 希望する ：60.4% 希望しない：11.0% 分からない：28.6%	自由記述（主な意見） ・平坦なコース設計、交通規制の軽減 ・冬の閑散期イベントとして期待 ・開催しないと客足の減少につながる ・欠点克服して開催してほしい
【コース設定の希望】 景色を楽しめる：46.4% 走りやすさ ：21.4% 中心市街地 ：20.5%	【よいと思う開催形式】 フルマラソン ：48.2% ハーフマラソン：32.1%	【ポイント】
【開催時期の希望】 11月：37.7% 10月：24.7%	【再開時の参加意向】 参加する ：70.1% 参加しない：0.7% 分からない：29.2%	(1) 各アンケートとも、再開を希望する声が多数ある。
【再開時の参加意向】 参加する ：76.2% 参加しない：23.4%	自由記述（主な意見） ・コースがキツイと聞く 12件 ・駐車場を近くに 12件 ・トイレを近くに 11件 ・マニュアルを徹底してほしい 18件 ・透明性確保、財政面の懸念 15件 ・再開を希望 15件 ・ハーフマラソンでの開催 10件 ・観光セットプランの提案 12件 ・他大会を参考にした運営を望む 8件 ・競合しない時期の提案 7件	(2) ランナーは、フルマラソンでの開催を望む声がある。一方、ボランティアは、フルマラソンも多いが、同様にハーフマラソンを望む声もある。
自由記述（主な意見） ・アップダウンが激しい 214件 ・距離の見直し（ハーフ等） 129件 ・松本城フィニッシュ希望 55件 ・名産品、エイドが楽しみ 95件 ・北アルプス等の景色が最高 92件 ・参加料が高い 80件 ・宿泊予約が困難 34件		(3) ランナー、ボランティアともに、再開時には参加したいという声が多数ある。
		(4) 各アンケートともコースの改善を望む声がある（アップダウン、距離、景色）。
		(5) ランナーから、松本城でフィニッシュしたいという声がある。
		(6) アップダウンコースの改善や松本城でフィニッシュしたいなどの要望がある中、コース変更などを実施したが、国道19号を松本市内で横断できないことや市街地を10時までに通り返けるといった制約があり、ランナーが望むコース設定は難しい。 5

2 松本マラソン継続可否の論点

- (1) 松本マラソンにおける不正な会計処理検証委員会（以下「検証委員会」という。）からの再発防止策及び提言への対応
 - ア 契約方法の見直し
 - その1 「県内マラソン大会における契約状況」
 - その2 「従来の契約方法の問題点」
 - その3 「想定される契約方法（公募型プロポーザル＋個別契約）」
 - イ 事務局体制の見直し
 - その1 「従来の事務局体制」
 - その2 「想定される事務局体制」
 - その3 「想定される事務局体制における経費シミュレーション」
- (2) 松本マラソン負担金の在り方
- (3) 長野県内におけるマラソン大会の状況

(1) 検証委員会からの再発防止策及び提言への対応

検証委員会の検証結果報告書から

【不正な会計処理の原因】

- ・ 2023大会の収支が不均衡となり、2024大会以降の松本マラソンの開催を危惧した事務局職員がその不正を主導したこと。
- ・ 松本マラソン実行委員会のガバナンスの欠如

【再発防止策及び提言】

- ・ 事務局組織体制の再検討
- ・ 実行委員会等を統制するための規程の策定
- ・ 平成30年度財政援助団体等監査結果への対応（改善・意見・要望事項）
委託契約の方法について、公募や一般競争入札を取り入れること。
※ 改善・意見・要望事項8項目の内、7項目は改善済み



不正な会計処理を二度と繰り返さないため、検証委員会から示された「再発防止策及び提言」項目のうち、2項目について抜本的な見直しが必要となることを踏まえ、以下の検討を行った。

(1)-ア 契約方法の見直し その1 「県内マラソン大会における契約状況」

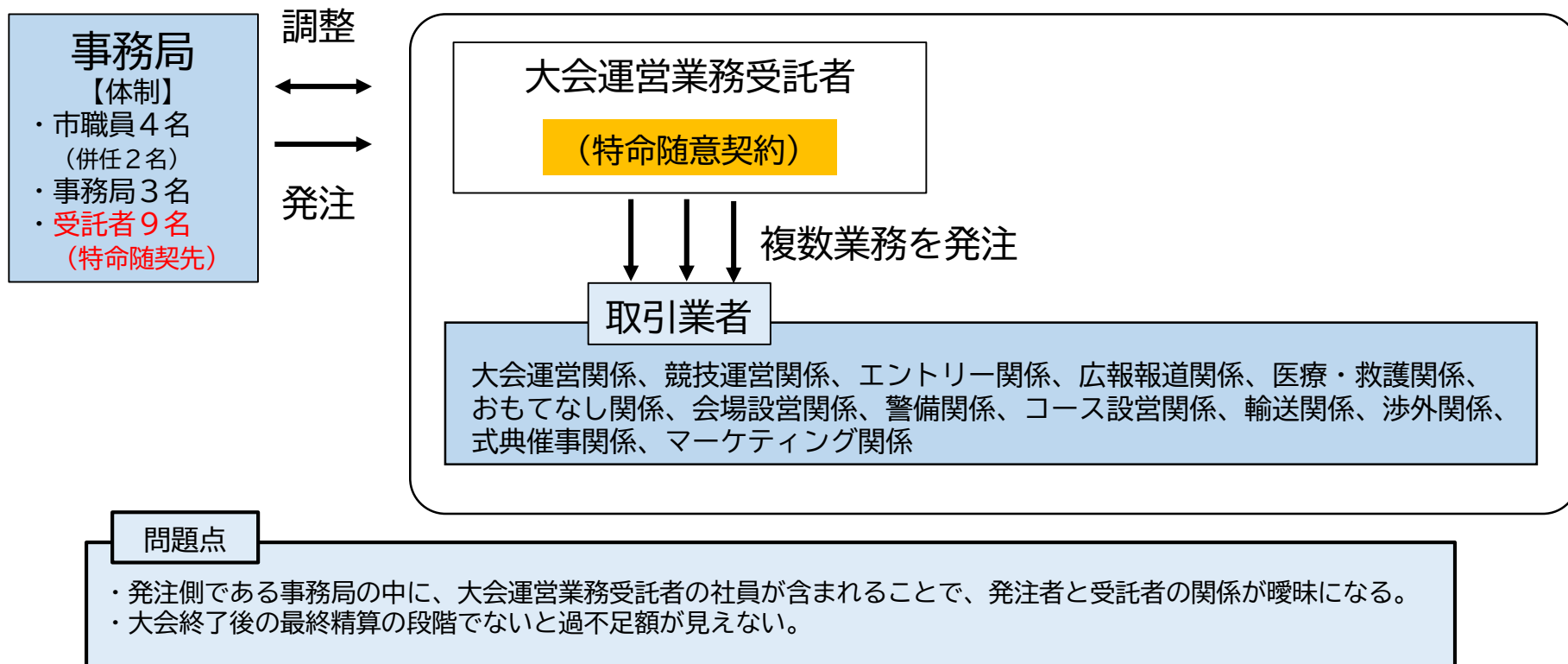
大会名	主催	運営方式	業務委託方法	プロポーザル
松本マラソン	松本マラソン実行委員会、 長野陸上競技協会	実行委員会	一括	×
長野マラソン	日本オリンピック委員会、 日本陸上競技連盟、 長野県、長野市、 信濃毎日新聞社	実行委員会	一括	×
軽井沢ハーフマラソン	軽井沢町、軽井沢観光協会、 若葉まつり実行委員会、 信濃毎日新聞社	民間	分割	×
諏訪湖ハーフマラソン	諏訪圏健康推進協議会	実行委員会	分割	×
信州安曇野ハーフマラソン	信州安曇野ハーフマラソン 実行委員会	実行委員会	一括	×
大町アルプスマラソン	大町アルプスマラソン 実行委員会	実行委員会	一括	×
佐久平ハーフマラソン	佐久市、 佐久市教育委員会	実行委員会	分割	○

【ポイント】

調査した長野県内のマラソン大会のうち、プロポーザル方式により契約している大会は、佐久平ハーフマラソンのみとなっている。

佐久平ハーフマラソンについては、複数の業務をプロポーザル方式により契約している。

(1)-ア 契約方法の見直し その2「従来の契約方法の問題点」



【ポイント】

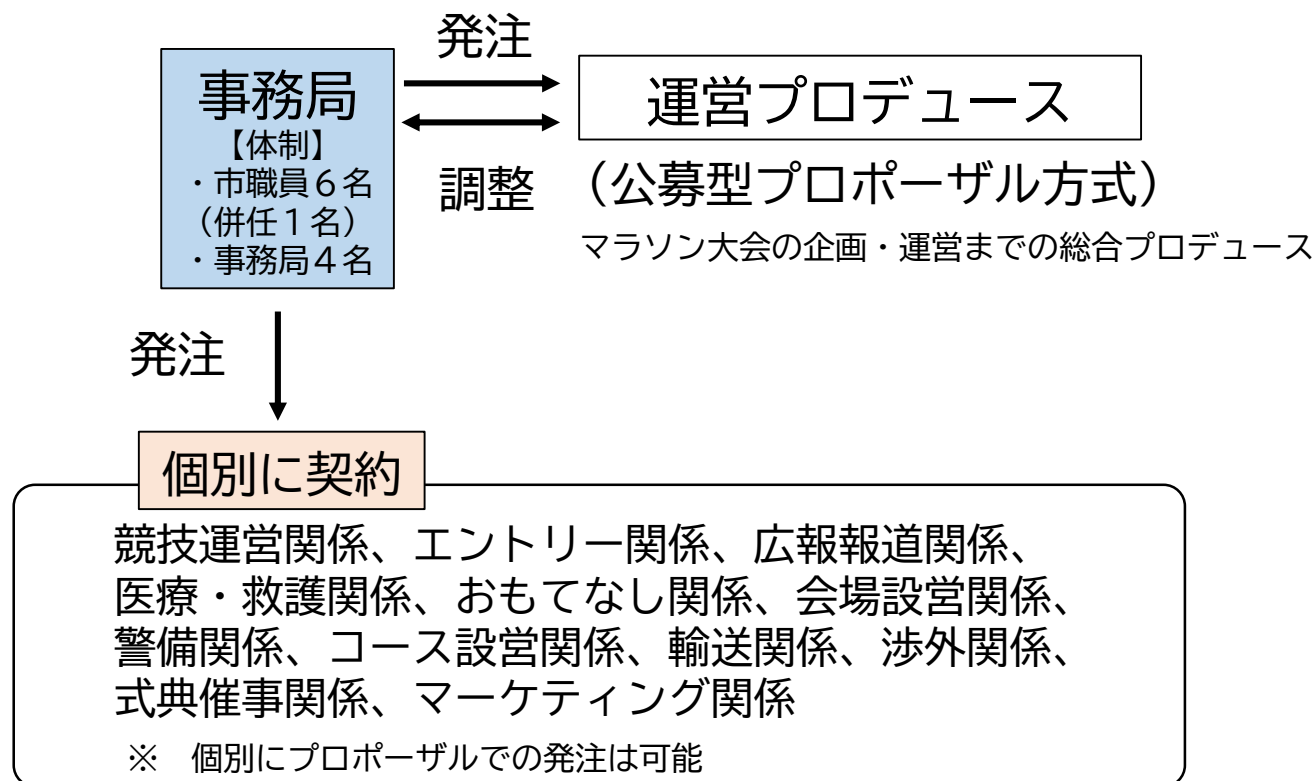
従来の契約方法（特命随意契約）は、以下の要因が不正な会計処理の一因となった。

- 1 透明性の確保ができないこと。
- 2 委託業務の執行状況の把握がしづらいこと。

(1)-ア 契約方法の見直し その3

「想定される契約方法（公募型プロポーザル方式＋個別契約）」

※ マラソン大会は競技とイベントを一括して開催することから、総合的なプロデュースが必要となるため、運営プロデュースの知見を有する外部へ委託するもの
その他の業務の発注については、事務局の市職員が担うもの

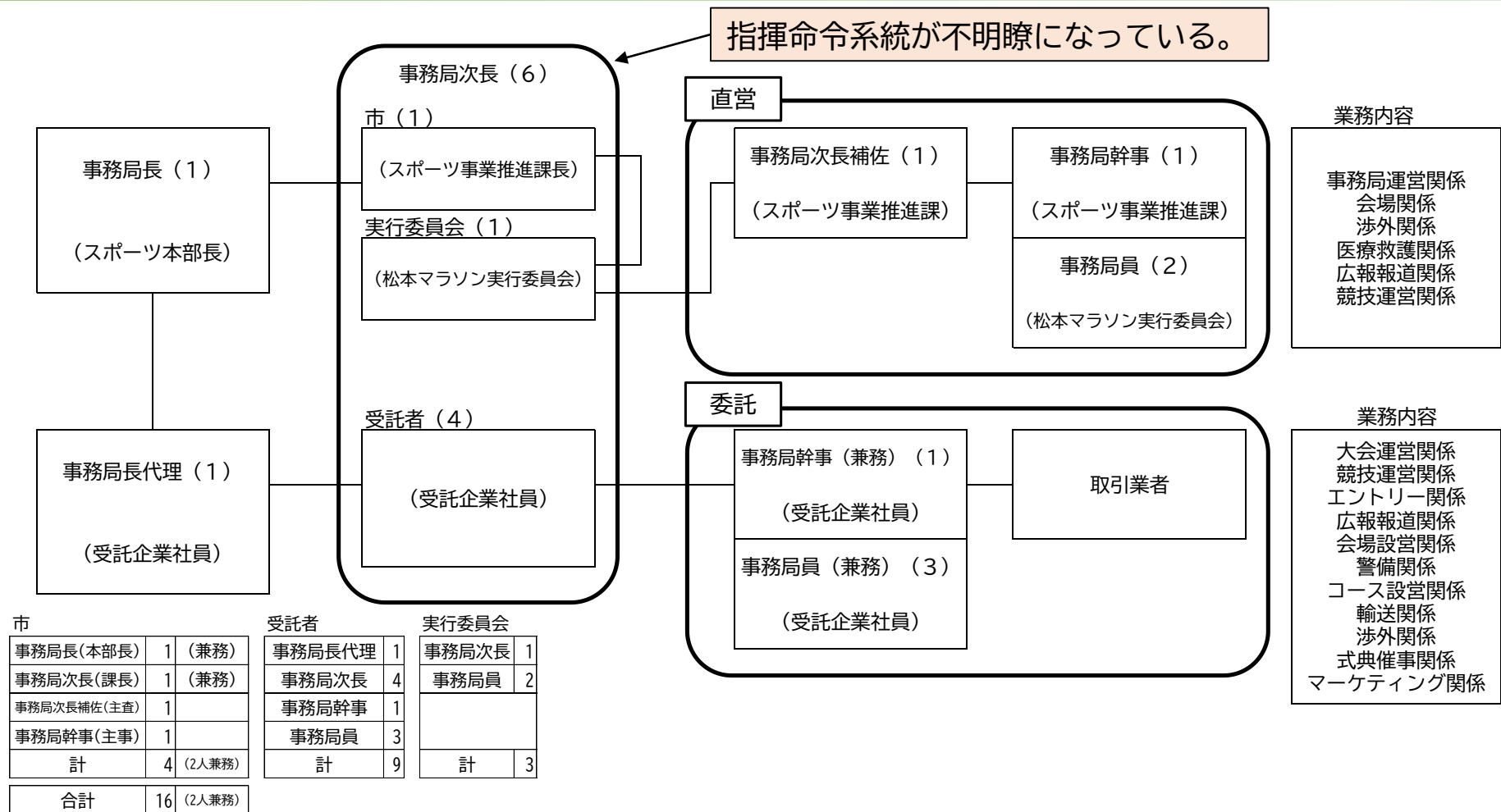


【ポイント】

想定される契約方法として「運営プロデュース」の受託者を選定し、調整しながら事務局が個別に契約発注を行うことで、透明性及び公平性が確保される。

一方で、各業務を直接発注するため、事務局業務が増加することから事務局員を増員しなければならない。

(1)-イ 事務局体制の見直し その1「従来の事務局体制」



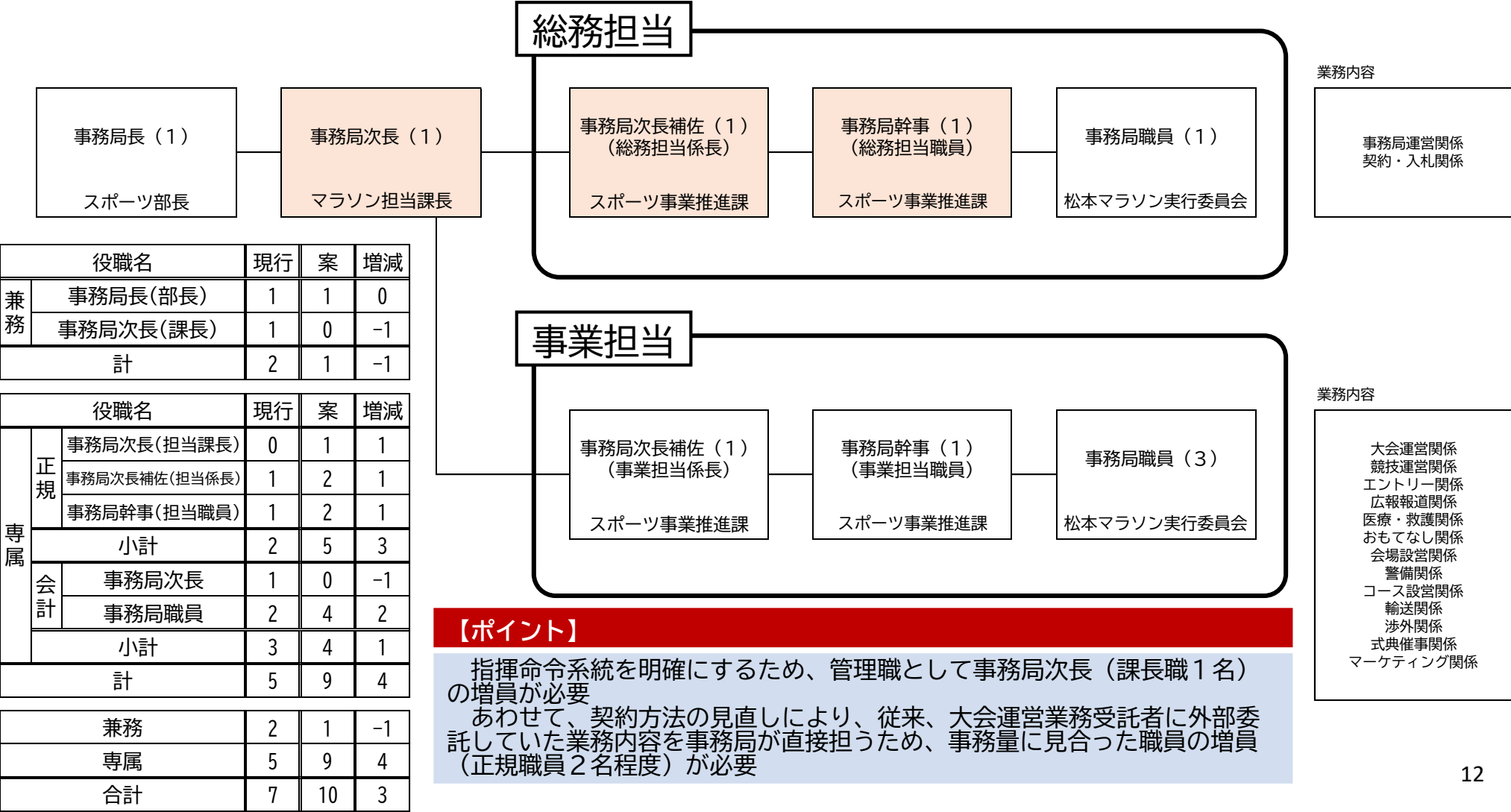
【ポイント】

<検証委員会の検証結果報告書P48から抜粋>

複数の出身母体からなる複数人が同じ職階で在籍するという指揮命令系統が不明瞭な組織であったことが、事務局の実務・財務に係る組織力・機動力の低下につながっていたと推測される。また、受託企業の社員が事務局を構成することは、迅速な意思決定や業務の遂行につながるが、なれ合いの関係になりやすいことも想起される。

(1)-イ 事務局体制の見直し その2「想定される事務局体制」

※ 想定される事務局体制では、大会運営業務を担う従来の事業担当に加えて、契約・入札業務を直接担うことになるため、新たに総務担当を配置する必要がある。



1 契約方法の見直し

- (1) 透明性を確保するため、公募型プロポーザル方式の採用が必要
- (2) 契約方法の見直しにより業務量が増えるため、総務担当として正規職員の増員が必要

2 事務局体制の見直し

指揮命令系統を明確にするため、管理職として事務局次長（課長職1名）の増員が必要

大会運営業務委託は、事務局が直接、契約・入札を担うため、事務量に見合った職員の増員（正規職員2名程度）が必要

(2) 松本マラソン負担金の在り方

(単位：円)

開催年		2017大会	2019大会	2022大会	2023大会	2024大会
エントリー数	マラソンの部	10,058人	8,311人	5,572人	4,918人	5,171人
	うち松本市民	1,559人	1,199人	843人	831人	872人
		15.5%	14.4%	15.1%	16.9%	16.9%
総収入(A)		260,040,721	246,494,730	265,523,745	237,622,218	219,411,848
参加料		109,274,400	90,618,480	67,539,300	63,956,100	68,686,800
協賛金		44,793,000	46,959,000	40,577,000	40,544,000	40,852,000
松本市負担金		93,080,000	91,280,000	120,510,000	117,510,000	94,000,000
その他収入(負担金、雑入)		11,631,343	10,356,440	15,263,336	14,869,354	15,126,282
繰越金		1,261,978	7,280,810	21,634,109	742,764	746,766
総支出(B)		244,702,900	245,870,736	264,780,981	252,825,452	247,269,231
収支 (A－B)		15,337,821	623,994	742,764	△ 15,203,234	△ 27,857,383
単年度収支 (繰越金除く。)		14,075,843	△ 6,656,816	△ 20,891,345	△ 15,945,998	△ 28,604,149
【参考】受託者値引額		—	—	△ 22,600,000	△ 23,950,000	△ 25,000,000
経済波及効果		7億1,367万円	6億0,575万円	4億1,821万円	4億6,257万円	5億2,947万円

【ポイント】

単年度収支は、2017大会のみ黒字だが、以降は赤字が続いており、2022大会以降は、市が約1億5,000万円を負担しないと黒字にならない。2017大会はエントリー数1万人、負担金1億円で7億円の経済効果があったが、直近では、エントリー数5,000人程度、総額約1億5,000万円の負担金で5億円の経済波及効果となっている。

松本マラソン負担金の在り方 まとめ

- 1 2019大会以降、エントリー数が定員に満たないため、単年度収支の赤字が続いている。
- 2 今後もエントリー数を増加することが難しいため、市が約1億5,000万円を負担しないと収支改善が見込めない。
- 3 当初は、1億円の負担で約7億円の経済波及効果を生んだが、直近では、約1億5,000万円を負担しても、5億円程度の効果となっている。

(3) 長野県内におけるマラソン大会の状況

開催月	大会名	制限時間	定員(人)	参加料(円)	開催地	主要種目						参加賞・完走賞		
						5km	10km	ハーフ	マラソン	小学生	親子			
3月	春の松本ランニングフェスティバル2025 in 信州スカイパーク	3時間	1,000	6,600	松本市		○	○			○	なし		
4月	第27回長野マラソン（フル）	5時間	10,000	14,300	長野市				公認			Tシャツ	フィニッシャータル	完走メダル
5月	軽井沢ハーフマラソン2025	2時間45分	5,500	9,000	軽井沢町			○			○	Tシャツ	タオル	
6月	第11回 信州安曇野ハーフマラソン	3時間	5,200	7,000	安曇野市			○			○	Tシャツ	お米	エコスプ
7月	第38回やぶはら高原はくさいマラソン大会（ハーフ）	3時間	1,500	6,000	木祖村	3km	公認	公認		○	○	特産品	スポーツグッズ	商品券
	第22回小布施見にマラソン（ハーフ）	5時間	8,000	8,800	小布施町			○				Tシャツ	フィニッシャータル	
10月	第38回上田古戦場ハーフマラソン大会	3時間	2,000	4,000	上田市	○	○	○		○		タオル	ビブス	他
	第10回 うるぎトライアルRUN（ハーフ）	4時間	150	3,500	売木村			○				特産品	木製メダル	
	第42回大町アルプスマラソン（フル）	6時間	1,200	6,000	大町市	3km	公認	公認	公認	○	○	タオル		
	第3回 佐久平ハーフマラソン	3時間10分	2,800	6,800	佐久市	○		○		○	○	有料Tシャツ	フィニッシャータル	
	第12回おんたけ湖ハーフマラソン	3時間30分	300	5,000	王滝村	○	○	○				オリジナル賞品		
	第37回諏訪湖マラソン（ハーフ）	3時間	7,000	7,700	諏訪市			公認				Tシャツ・トートバッグ・キャップ・シューズバッグから選択		
11月	【開催中止】松本マラソン2025	6時間	6,000	12,000	松本市		○		公認		○	Tシャツ	メダル	フィニッシャータル
	第10回 千曲川ハーフマラソン	3時間	1,600	6,000	千曲市			○			○	Tシャツ	温泉無料券	
12月	2025第13回信州大学マラソン（フル）	5時間	150	6,000	松本市			○	○			なし		

合計 15大会

【ポイント】

長野県内の公認フルマラソン大会としては、長野マラソン、大町アルプスマラソンがある。
 主なハーフマラソン大会は、軽井沢ハーフマラソン、信州安曇野ハーフマラソン、小布施見にマラソン、諏訪湖マラソンがある。
 松本市で実施されているランニングイベントとして、春の松本ランニングフェスティバル、信州大学マラソンがある。

松本マラソン継続可否の論点 まとめ

- 1 検証委員会からの再発防止策及び提言への対応として
 - (1) 契約方法の変更に伴い増加する事務量に見合った職員の増員（正規職員2名程度）が必要
 - (2) 指揮命令系統を明確にするため、管理職として事務局次長（課長職1名）の増員が必要
- 2 エントリー数が5,000人程度となる中、市が約1億5,000万円を負担しても、当初の経済波及効果は見込めない。
- 3 松本マラソンを開催しない場合でも、補完できるスポーツイベント及び大会が開催されている。

3 松本マラソン継続可否の結論

結論

- 1 ランナーが求めるコース設定が難しいこと及び近県の人気大会と開催時期が重なっていることから、エントリー数の確保が難しい。
- 2 エントリー数の減少で参加料収入が確保できないため、赤字が続いており、今後も収支改善が見込めない。
- 3 検証委員会からの再発防止策及び提言への対応として契約方法の見直し及び事務局体制の見直しを想定すると職員の増員（正規職員3名程度）が必要となるが、令和10年の国スポ・全障スポを担当する職員の増員が必要となるため、上記のような人員の確保が難しい。
- 4 松本マラソンを開催しない場合でも、補完できるスポーツイベント及び大会が開催されている。

以上の理由から総合的に判断して



松本市で今後も継続してフルマラソンを開催することは難しいため

松本マラソンは終了します。